

チャレ*くま通信

「チャレ*くま通信」は就労移行支援事業所チャレジョブセンター熊谷が定期的に発行する広報誌です

就職・検定情報

▽今月は1名、就職が決まりました。ホームセンターのバックヤードスタッフです。在庫管理を中心としながら、品出しなど店内業務も担当します。とにかく手先が器用で、DIYはお手のもの。自分の強みを見極め、慌てず余裕を持った就職活動（見学・実習・面接）を展開しました。おめでとうございます。

▽資格試験では、日本化粧品検定1級に1名が見事、合格されました。ほんの数か月前、持ち前の知識で3級、準2級と電光石火のごとく合格。その勢いのまま書店で1級のテキストを調達。化粧品やボディケア、ヘアケア、ネイルなど、幅広い知識に触れました。焦らず悠々と構える佇（たたず）まいには、余裕さえ感じました。おめでとうございます。



編集部まえがき

今年もよく泣いている。孤独に全てを一年中。自暴自棄になるのも無理はない。好きで嘆きたいわけじゃない。それはなんとなくわかる。水を肴に舞い踊るカタツムリでも見て落ち着いてくれるかな。空も心が弱いんだね。人間じゃない。今、ようやくわかった。



くま de レポート

「友達をどう、つくるか」

「わたしたちは友達ですか」

友達が、いない。思えば、友達の作り方なんて、学んでこなかった。教えてもらってもないの。友達とは一体、どうつくるのか。友達づくり悩んできたメンバーが、語り合った。

■友ダチの造りカタ

友達というのは、学校など、人と話しをできる場がまずつくられ、そこから始まるのではないかと思います。クラス替え直後、担任の先生から「これから皆さんは仲間同士です」など、半ば強制的に、友達を作ろうという雰囲気があります。その後、いろいろな人の会話を耳にするなかで、「趣味が合いそうだな」「考え方共感できそうだな」と感じたとき、声をかけてみようかなと、少しだけ勇気が芽生えます。その積み重ねの遙か先に、友ダチから友達へと昇華するのだと思います。最初から思い切った声をかけるというのでは

なく、相手の雰囲気や普段の行動を見てから、はじめてスタートラインに立てます。自分の話や振る舞いに興味を持ってもらい、「話してみたい」「友達になりたい」と思われることもあります。そうやって段階を踏み、友達になっていくのではないのでしょうか。

■「作る」より「成る」

友達の作り方には明確な方法はないと思っています。むしろ、友達は「作る」ものというより「成る」ものという認識です。知人として出会い、関わりを続けるなかで、段々と友人になっていく。その感覚は将棋の駒が条件を満たして「成る」のに少し似ています。友人関係になるまでの時間は人によって違い、数日では、何年かかることもあれば、そうと意識して行動するより、その時々に関係を自然に育てていくことの方が大切なのではないかと感じています。以前は友達を作ろうと思っていたが、今はあまりそうした意識はありません。

■友達の作り方

私は少し違う視点で考



興味を幅を広げると、会話の入口を見つけやすい

えていて、「会話の引き出しを増やすこと」が友達作りにつながると思っています。普段から興味の幅を広げて知識や話題を増やしておけば、どんな人と出会っても会話の入り口を見つけやすくなります。そして、その分野に詳しい人や熱中している人と話すことで、自分も学べるし、相手への尊敬も生まれます。相手も気持ちよく話してくれ、関わりが深まりやすくなると思います。ただ、何でも広く手を出しすぎると器用貧乏になってしまうかもしれません。それでも、自分は周囲の人に「一緒にいて良かった」と思ってもらえる時間を作りたい。その積み重ねが結果として友達に繋がります。また今回他の人の話を聞いて、友達は一足飛びにできるものではなく、段階を踏みながら少しずつ関係が変化していくものなのだと改めて感じました。